

**令和2年度Sport in Life推進プロジェクト
(ターゲット横断的なスポーツ実施者の増加方策事業)**

「部活動ボーダーレス化によるスポーツ意欲の増加」

「北海道鹿追高等学校」

2021年2月12日

事業概要

地方小規模高校である鹿追高校の生徒を対象として、生徒主体で従来の部活動の在り方を見直しや体育系部活間のボーダレス化に取り組むことなどにより、文科系部活所属の生徒にも課外活動においてスポーツに親しむ機会を付与するとともに、部員数の少なさからチームとして成り立たない団体スポーツの部員数増加などを図り、スポーツを好きになる生徒数の増加や、スポーツ実施時間及び意欲の向上を図る。

実証フィールド	北海道鹿追高等学校*、鹿追町
代表団体	北海道鹿追高等学校*（全校生徒140名 主な対象1，2年）
構成団体	鹿追町教育委員会*、北海道鹿追高等学校体育文化後援会、北海道鹿追高等学校部活動活性化プロジェクト実行委員会、knots associates 株式会社、一般社団法人Sports X Initiative*、日本電気株式会社* ※「*」はSport in Lifeコンソーシアム加盟団体
ターゲット	鹿追高校全校生徒（「体育部」「文化部」「帰宅部」の3属性に分類して実施）
プロジェクト実施内容	<p>【属性1】運動部生徒（以降、運動部） 多様なスポーツへのかかわり方を知ることを通じて、部活動以外の場でも継続的にスポーツに関わることができるように促す。 ・複数スポーツを楽しむ機会を与えることを通じて、スポーツの新たな楽しみ方を知る ・スポーツを「ささえる」機会を通じて、スポーツに関する理解を深める ・文化部、帰宅部の生徒のスポーツ実施をサポートすることを通じて、多様な仲間とのスポーツとの楽しみ方を学ぶ</p> <p>【属性2】文化部生徒（以降、文化部） スポーツが手軽に安全に楽しめることを知ってもらうこと、及びスポーツをすることが自分にとって意味があることを知ってもらうことを通じて、スポーツに取り組む心理的なハードルを下げるとともに、手軽に安全にスポーツをやってみる機会を提供する。 ・スポーツが手軽に安全に楽しめることを知ってもらう ・スポーツを「する」ことが自分にとって意味あることを知る ・手軽に安全にスポーツを楽しめる機会の提供</p> <p>【属性3】部活動未加入（以降、帰宅部） スポーツが手軽に安全に楽しめることを知ってもらうことを通じて、スポーツに取り組む心理的なハードルを下げるとともに、手軽に安全にスポーツをやってみる機会を提供する。 ・スポーツが手軽に安全に楽しめることを知ってもらう ・手軽に安全にスポーツを楽しめる機会の提供</p>



2. スポーツ実施頻度や実施意欲の改善効果

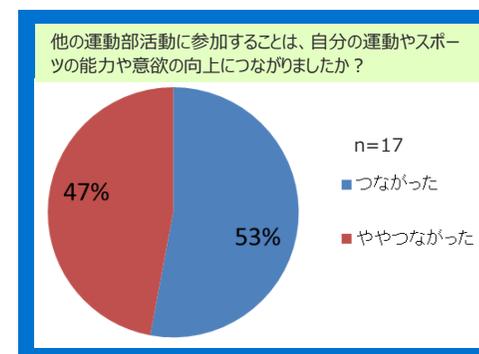
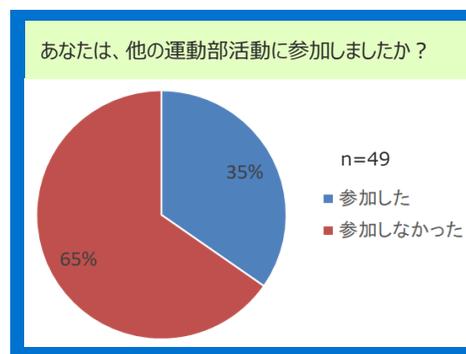
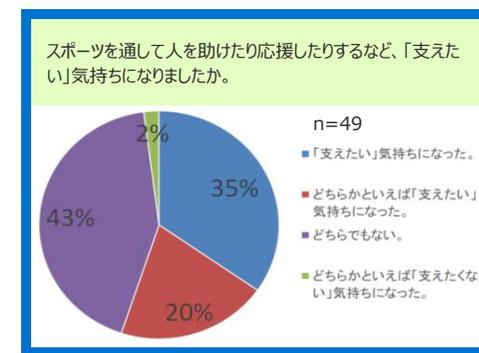
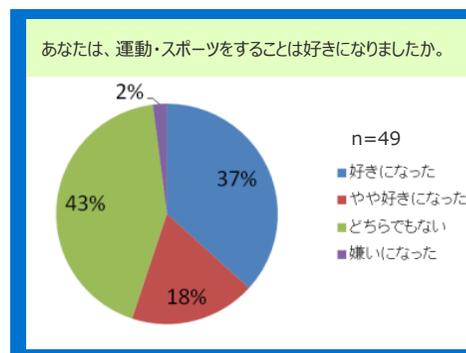
効果検証の概要

ターゲット	現状	目標	実績	効果検証方法
①運動部	—	スポーツ実施意欲の向上 50%	スポーツ実施意欲の向上55%	事後のアンケート調査結果から分析
	—	スポーツ支援意欲の向上 30%	スポーツ支援意欲の向上55%	事後のアンケート調査結果から分析
	他の運動部活動の参加 0%	他の運動部活動の参加 30%	他の運動部活動の参加 35%	事前状況の聞き取り調査、事後のアンケート調査結果から分析

効果検証の結果

- プログラム終了1週間後に、スポーツ実施意欲に関する設問について、「**スポーツがより好きになった**」と回答した割合が**55%**であった。
- プログラム終了1週間後に、スポーツ支援意欲に関する設問について、「**支えなくなった**」と回答した割合が**55%**であった。
- 部活動ボーダーレス化について、プログラム終了1週間後に、「**他の運動部活動に参加した**」と回答した割合が**35%**であった。そのうち、「他の運動部活動に参加することは、自分の運動やスポーツの能力や意欲の向上に「**つながった**」との回答が53%、「**ややつながった**」が47%で、**他の運動部活動に参加した運動部所属の生徒全員が能力・意欲の向上を認めている**。

ターゲット
①
運動部



2. スポーツ実施頻度や実施意欲の改善効果

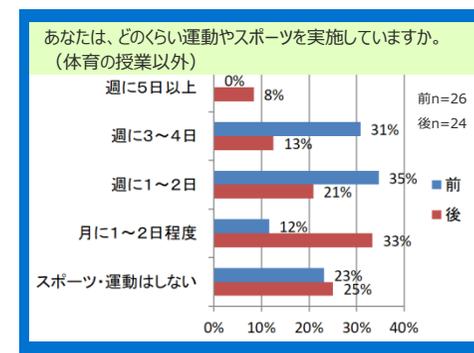
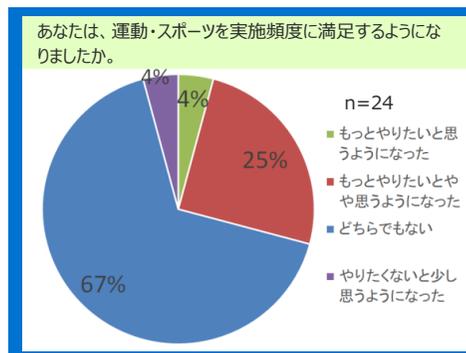
効果検証の概要

ターゲット	現状	目標	実績	効果検証方法
②文化部	—	スポーツ実施意欲の向上50%	スポーツ実施意欲の向上25%	事後のアンケート調査結果から分析
	スポーツ実施頻度 66%	スポーツ実施頻度 70%	スポーツ実施頻度 42%	事前、追跡のアンケート調査結果から比較分析
③帰宅部	—	スポーツ実施意欲の向上50%	スポーツ実施意欲の向上44%	事後のアンケート調査結果から分析
	スポーツ実施頻度 84%	スポーツ実施頻度 85%	スポーツ実施頻度 77%	事前、追跡のアンケート調査結果から比較分析

効果検証の結果

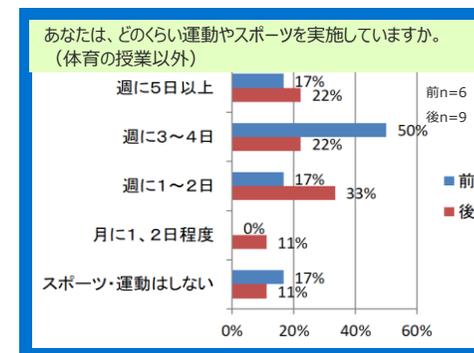
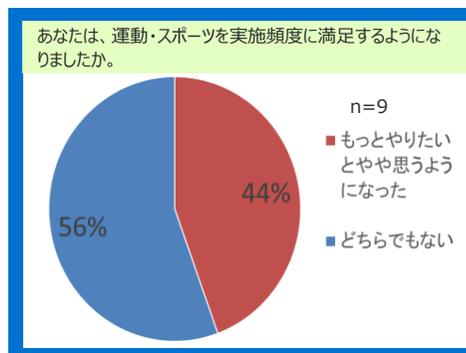
ターゲット ② 文化部

- プログラム終了1週間後に、スポーツ実施頻度の向上意欲に関する設問について、「**もっとやりたいと思うようになった**」と回答した割合が**25%**であった。
- プログラム実施前と実施後終了から1週間経過後を比較すると、**週に1日以上**のスポーツ実施者が、**(事前) 66%から42% (追跡) と22p下降**した。



ターゲット ③ 帰宅部

- プログラム終了1週間後に、スポーツ実施意欲の向上意欲に関する設問について、「**もっとやりたいと思うようになった**」と回答した割合が**44%**であった。
- プログラム実施前と実施後終了から1週間経過後を比較すると、**週に1日以上**のスポーツ実施頻度が、**(事前) 84%から77% (追跡) と7p下降**した。



3. スポーツ実施改善の要因の分析（阻害要因や促進要因の仮説検証）

「北海道鹿追高等学校」

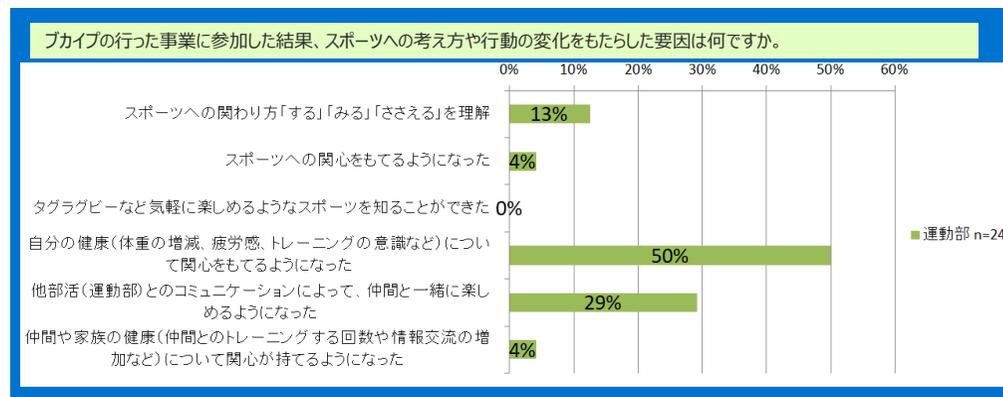
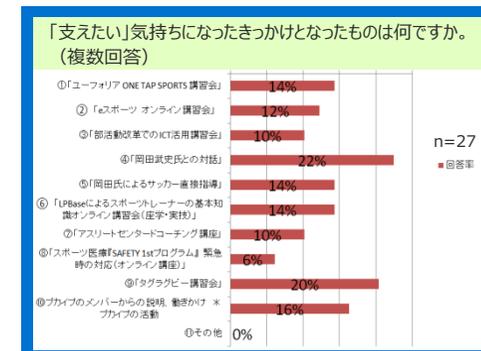
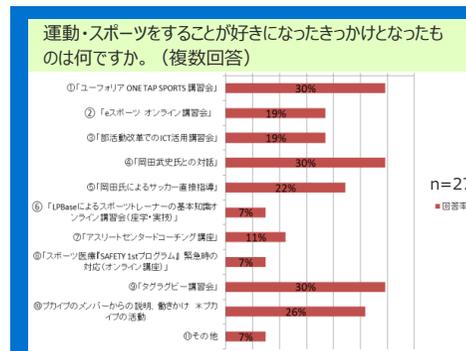
スポーツ実施改善要因の分析結果概要

ターゲット	効果スポーツ実施の阻害要因、促進要因（事業実施前の仮説）	効果スポーツ実施の阻害要因、促進要因（検証結果）
運動部	他スポーツを楽しむ機会、専門的な指導を受ける機会がなく（阻害要因）、それらを提供すれば、スポーツ実施意欲や支援意欲が高まる。	検証の結果、左記の仮説のとおりであることが判明した。

スポーツ実施改善要因の分析結果詳細

ターゲット
①
運動部

- ターゲットのスポーツ実施意欲向上に寄与した要因は、本事業全ての活動に分散しており、特に①「ユーフォリア ONE TAP SPORTS 講習会」、「岡田武史氏との対話」、「ラグビー講習会」が30%と高いことが示唆された。
- 次に、部活動ボーダーレス化を図るなど「⑩ブカイクメンバーからの説明・働きかけ」が26%と相対的に高いことが示唆された。
- ターゲットの「支える」意欲向上に寄与した要因は、本事業全ての活動に分散しており、特に「岡田武史氏との対話」が22%、「ラグビー講習会」が20%と比較的高いことが示唆された。
- 「スポーツへの考え方や行動の変化をもたらした要因は何ですか。」に回答した24人のうち、「**自分の健康（体重の増減、疲労感、トレーニングの意識など）**について関心をもてるようになった」との回答が50%、次に「**他部活（運動部）とのコミュニケーションによって、仲間と一緒に楽しめるようになった**」が29%と、運動部生徒にとって、**モニタリングの導入やブカイクのボーダーレス化の活動**が、変化の要因として相対的に大きいことが示唆されている。



3. スポーツ実施改善の要因の分析（阻害要因や促進要因の仮説検証） 「北海道鹿追高等学校」

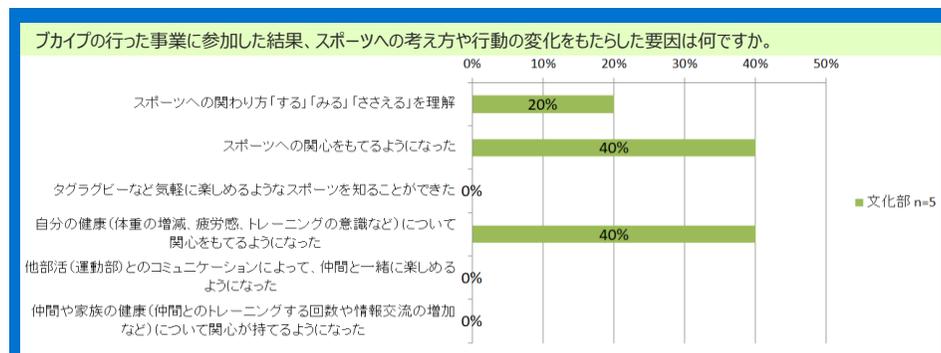
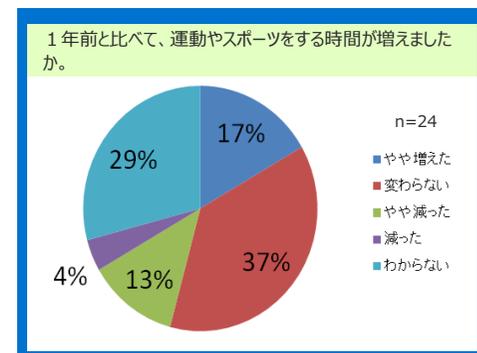
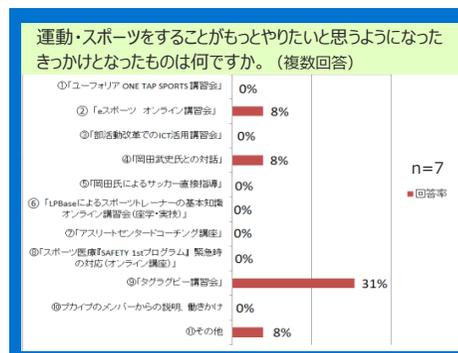
スポーツ実施改善要因の分析結果概要

ターゲット	効果スポーツ実施の阻害要因、促進要因（事業実施前の仮説）	効果スポーツ実施の阻害要因、促進要因（検証結果）
文化部	スポーツが安全で気楽に親しめる機会や自分にとって意味のあることと感じる機会がなく、それらを提供すれば、スポーツ実施意欲が高まる。	検証の結果、左記の仮説のとおりであることが判明した。

スポーツ実施改善要因の分析結果詳細

ターゲット
②
文化部

- ターゲットのスポーツ実施意欲向上に寄与した要因は、本事業全ての活動に分散しており、「ラグビー講習会」が31%と高く、「eスポーツ オンライン講習会」「岡田武史氏との対話」が8%であった。
- プログラム後で実施頻度「週1日以上」が22p減ったことに関して、実施頻度が「増えた」は17%ある一方、「減った」も17%であり、人数では均衡している。「減った」と答えた理由としてコロナの感染拡大、時間不足等があげられた。
- 「スポーツへの考え方や行動の変化をもたらした要因は何ですか。」に回答した5人のうち、「**自分の健康（体重の増減、疲労感、トレーニングの意識など）**について関心をもてるようになった」、「**スポーツの関心をもてるようになった**」がともに40%と、「**スポーツへの関わり方『する』『みる』『ささえる』を理解**」への回答が20%と、文化部生徒にとっては、**コンディショニング管理の講座の導入や校内でのブカイクによる他生徒への関心意欲の向上の取組**等が、変化の要因として挙げられている。



3. スポーツ実施改善の要因の分析（阻害要因や促進要因の仮説検証） 「北海道鹿追高等学校」

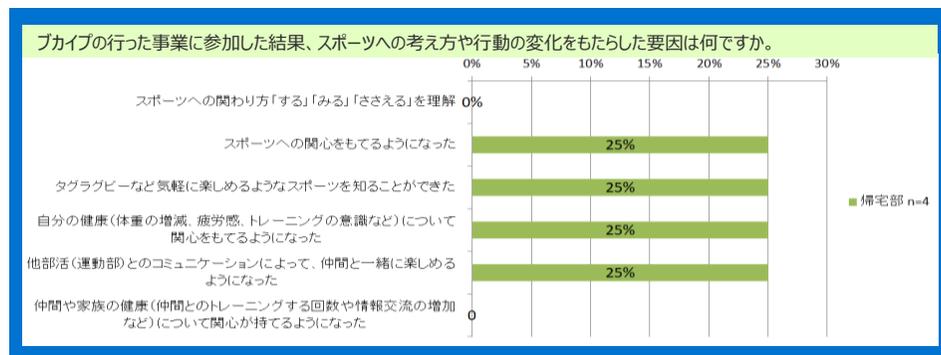
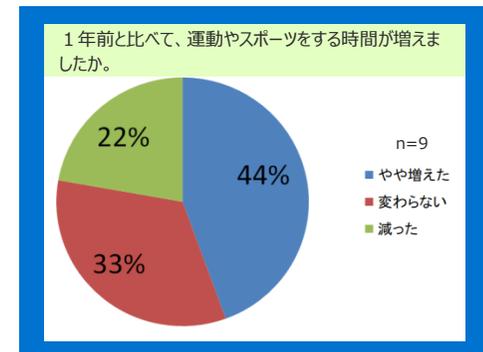
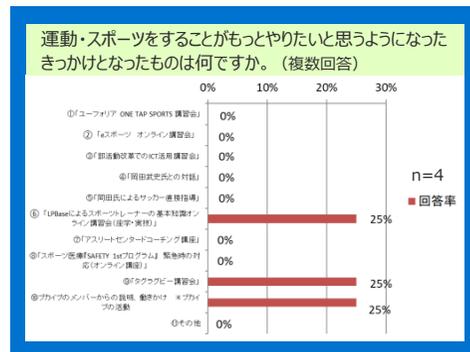
スポーツ実施改善要因の分析結果概要

ターゲット	効果スポーツ実施の阻害要因、促進要因（事業実施前の仮説）	効果スポーツ実施の阻害要因、促進要因（検証結果）
帰宅部	スポーツが安全で気楽に親しめる機会や自分にとって意味のあることと感じる機会がなく、それらを提供すれば、スポーツ実施意欲が高まる。	検証の結果、左記の仮説のとおりであることが判明した。

スポーツ実施改善要因の分析結果詳細

ターゲット
③
帰宅部

- ターゲットのスポーツ実施意欲向上に寄与した要因は、本事業全ての活動に分散しており、「ラグビー講習会」が25%、「LPBaseによるアスレティックトレーナーの基本知識」「ブカイクメンバーからの説明、働きかけ」がそれぞれ25%だった。
- プレ・ポスト調査で「週1日以上」のスポーツ実施頻度がプログラム前後で7ポイント減った結果に関して、実施頻度が「減った」の回答は22%であるものの、44%が「増えた」と回答しており「減った」を上回っている。
- 「スポーツへの考え方や行動の変化をもたらした要因は何ですか。」に回答した4人のうち、「スポーツの関心をもてるようになった」「ラグビーなど気楽に楽しめるようなスポーツを知ることができた」「自分の健康（体重の増減、疲労感、トレーニングの意識など）について関心をもてるようになった」「他部活（運動部）とのコミュニケーションによって、仲間と一緒に楽しめるようになった」がともに25%と、帰宅部の生徒にとっては、変化の要因が分散していることが明らかとなった。



<p>事業継続や横展開に向けたポイント、課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ポイント <ul style="list-style-type: none"> ・部活動改革プロジェクトチーム（ブカイク）の生徒達を中心とした複数スポーツのノーマル化及びボーダーレス化の取組 ・文化部、帰宅部の生徒達も一緒にスポーツを楽しめる機会の創出 ・専門家からの遠隔指導を強化 ・本校兼部を実現するための諸規約の改正 ・学校部活動から総合型地域スポーツクラブへの移行 ●課題 <ul style="list-style-type: none"> ・長期的な計画及び実施プランの作成 ・事業運営に従事する人材の増員及び再委託
<p>次年度以降の事業継続、横展開の計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●自立的な事業継続、横展開の計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ブカイクによる兼部の制度化、諸規約の改正 ・ブカイクによる文化部、帰宅部に対するスポーツ導入の機会の創出 ・専門家からの遠隔指導を強化し、地方ロールモデルの創出 ・町役場、町教委と連携した総合型地域スポーツクラブの設置、マネタイズの仕組みづくり ・事業運営に従事する人材の増員及び再委託
<p>今後の事業展開に向けて期待される sport in Life プロジェクトにおける取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●期待すること <ul style="list-style-type: none"> ・事業期間を2年間の単位としていただきたい。 ・地方の小規模校スポーツ振興ロールモデルとなるために、道立高校と地元自治体（鹿追町）との連携による総合型地域スポーツクラブ設置、マネタイズの仕組みづくりに向けて、さらなるサポートを期待したい。 ・ICTを活用した、遠隔での専門家指導の強化をさらに御支援いただきたい。